



築150年ほどの木造家屋を、形と構造を残しつつ耐震補強や断熱性能を高め、安心かつ快適に暮らせる状態にリノベーション。緑豊かな山間にあるロケーションを活かすため、室内から外の景色を眺められるよう設計し、家にながら自然とつながりを感じられる工夫が凝らした。建物の内装仕上げや外壁、新たに設置した外観には、アルカリ成分が強く自浄作用のある天然のスペイン塗壁を用いている。



東西南北の5つのゾーンで異なる庭づくりの実例を披露

ポイントとは、古民家を取り囲むように計5カ所で趣の異なる庭づくりを見られること。建物へと続く坂道のアプローチには段々畑のように花壇を造成。青いバラ「ブルーグラビティ」をはじめ、色とりどりの宿根草が植えられている。建物正面、南側のガーデンスペースにはつるバラを植え、バラソルトとガーデンセットを置いた。1年も経てばフェンス二面に広がるバラのカーテンを眺めつつ、パーベキューやアフタヌーンティーを楽しむようになるだろう。建物北側の山沿いには天然石の石貼りデッキを設け、寄植えのハンギングバスケットを飾り、東側には宝満石を積み上げたポーターガーデンをつくった。西側には季節ごとに違う風景を楽しむようにと、四季咲きのバラを中心にクリスマスローズや西洋アサギを植え付け、古い枕木を並べてフェンスに仕立てるアイデアも参考になる。

さらに、ヤマボウシ、オリブ、ジュンベリーなど、シンボルツリーにおすすめの樹木も見られるとのこと。植栽の高低のバランスや、寄植えの色や種類のコンビネーションも実際に見て確認できるので、ここに来れば庭づくりのイメージが広がろうだ。



古民家再生 住宅展示場
風のくら

広い庭に土間や薪ストーブなど、手入れが必要なものに囲まれた古民家ライフ。そこには、あえて手間ひまをかけることで暮らしを楽しむヒントがちりばめられています。

「手間ひまをかける」を楽しむ古民家式ライフスタイルのすすめ。

筑紫野市の山間に残されていた明治初期につくられた旧家の家屋。150年ほど前に職人が丹精込めて建てた家を、現代の建築技術を用いてリノベーションしたのが「風のくら」。「ハウズランド社」が手がけた古民家再生モデル住宅だ。間取りや構造に昔の名残をとどめつつ、女性コディネーターが現代のライフスタイルに合わせてインテリアをプランニング。スタンダードグラスやアイアンを随所に取り入れてアンティークな趣を感じさせる空間をつくりあげた。

建物のリノベーションから10年を経て、このたび建物周囲のエクステリアもリニューアル。古い垣根に囲まれて常緑樹と庭石が存在感を示していた純和風の庭は、バラや色とりどりの宿根草が咲き誇り、アフタヌーンティーも楽しめるイングリッシュガーデンへと生まれ変わった。

